

1 単元名 地域調査

2 単元について

(1) 生徒の実態

生徒の実態を探るために、アンケート調査を実施した。(令和5年5月8日実施 対象2年4組 32名) 次の図1・2は、その結果である。

図1 地理的分野の学習で大切だと思うこと・おもしろいと感じることは何ですか。(複数回答可)

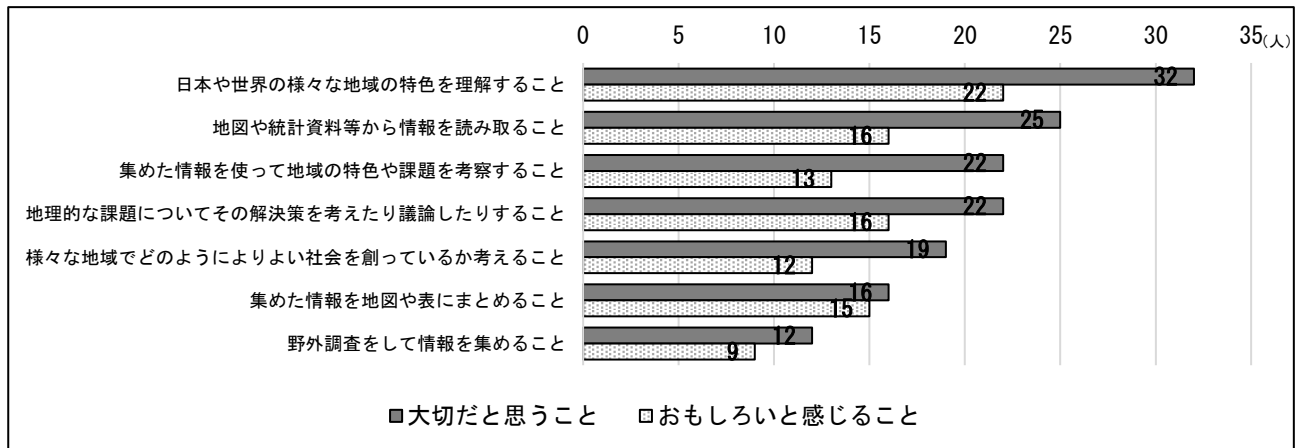
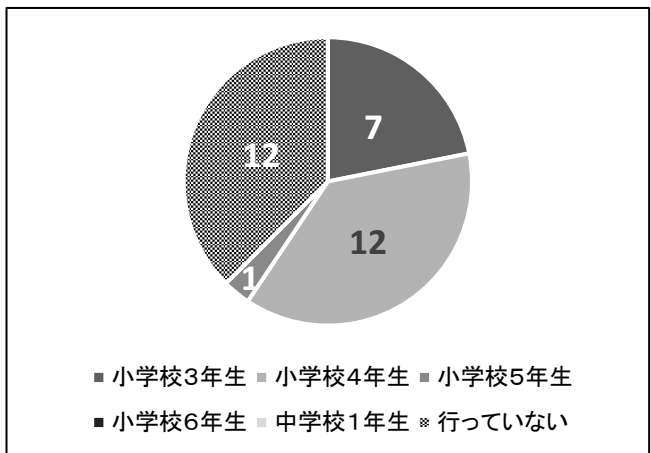


図1からは、地理的分野の学習で大切だと思うこと・おもしろいと感じることについて、「野外調査をして情報を集めること」がそれぞれ12名、9名と最も低い値を示している。また、図2からは、社会科の授業において野外調査の経験がない生徒が12名おり、経験がある生徒も小学校3・4年生での経験が大部分を占めている。生徒が経験した野外調査については、工場見学等の社会科見学が多かった。

図2 社会科の授業で、野外調査をしたことがありますか。またそれは何年生のときですか。



「地理的分野の学習で大切だと思うこと・おもしろいと感じることは何ですか。」「社会科の授業で、野外調査をしたことがありますか。」の二つの設問に対する回答のクロス集計(図3・4)からは、二つの設問の回答には有意な関係は見られなかったことがわかる。しかし、生徒は小学校5年生以降、社会科の授業において野外調査の経験がほとんどないこと、これまでの野外調査が見学中心だったことを踏まえると、「野外調査をして情報を集めること」を地理的分野の学習として大切に感じられなかったり、おもしろいと思えなかったりする背景には、社会科の授業の中で、自ら調査テーマを設定した探究的な野外調査を十分に行えなかったことがあげられると捉えた。

図3 「野外調査をして情報を集めること」は大切なことだと思う。

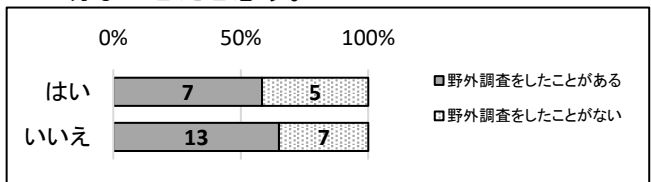
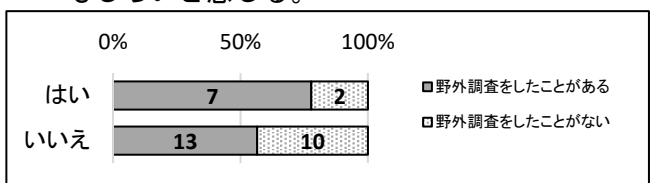


図4 「野外調査をして情報を集めること」をおもしろいと感じる。



(2) 単元観

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編（以下、「解説」という。）では、「地域に広がる景観等を対象にして地域調査を行うことは地理学習において中核となる学習である」と示され、地域調査ならではの四つの特質に言及している¹。また、池は地域調査における代表的な活動であるフィールドワークについて、四つの教育的意義を指摘している²。地理的分野の学習において、生徒の資質・能力の向上に地域調査が果たす役割は大きいと考えられる³。

そこで、解説における大項目「日本の様々な地域」において、地域調査を取り入れた学習を展開していくことにした。具体的には、「(1) 地域調査の手法」を受けて設定した本単元、「(3) 日本の諸地域（関東地方）」と「(4) 地域の在り方」を合わせて設定する単元の二つの単元で、そ

表 「日本の様々な地域」における地域調査のねらい

中項目	時期	ねらい
(1) 地域調査の手法	6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域調査の手法の理解 ・ 地域調査に関わる地理的技能の習得 ・ 大項目の学習の見通しの獲得 ・ 水戸に対する興味・関心の向上
(3) 日本の諸地域 関東地方 (4) 地域の在り方	12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関東地方の特色の理解 ・ 水戸市の実態や課題解決のための取組の理解 ・ 水戸市の課題の解決に向けた考察・構想 ・ 水戸市の課題を主体的に追究しようとする意欲の醸成

れぞれ地域調査を取り入れた学習活動を行う。大項目を通して地域調査を複数回取り入れることで、地域調査の手法の理解や地域調査に関わる地理的技能の習得を確実なものにすると同時に、地理的分野の学びが、生徒の生活体験から離れたものではなく、身近なものとして感じられるようにしていく。

本単元は、地域調査を取り入れた二つの単元のうち最初の単元である。本単元のねらいは、地域調査の手法について理解し、地域調査に関わる地理的スキルを身に付けること、地域調査を通して水戸⁴や学校周辺の地域の新たな側面を発見したり、疑問をもったりすること、それらの気づきを大項目「日本の様々な地域」の学習の見通しに結び付けること、地域調査を通して水戸や学校周辺の地域に対する愛着をさらにもつことである。

地域調査の対象とする水戸は、関東平野の北部に位置する。水戸市は茨城県庁所在地として県政の中心地であり、県内の市町村では最も人口が多い。常磐線や水郡線といった鉄道、常磐自動車道や北関東自動車道といった高速道路、国道 6 号線が交差する交通の要所でもあり、日本三名園の一つである偕楽園をはじめとした観光資源を有する。江戸時代には水戸徳川家の城下町として栄えた歴史をもつ。中でも本校周辺の地域は、市街地が広がる台地と那珂川沿い一帯の低地に大別できる。台地には、古墳や神社など歴史的なスポットが多数点在する。一方で低地は、那珂川の氾濫による洪水の被害を受けてきた地区でもある。このように、水戸は地形の特色、防災への取組、政治的な特色、交通の様子、観光地としての取組、歴史的な特色と、豊かな地理的な特色を有するまちである。水戸を地域調査の対象として扱うことで、新たな側面を発見したり様々な側面から疑問をもったりすることができると考える。また、それらの発見や疑問は、大項目「日本の様々な地域」の学習内容への接続が期待できる。

¹ 解説では、「第 1 は、景観を対象にして観察や野外調査をし、それを基に地域の課題を見だし、考察することができること、第 2 は、自分たちの観察や野外調査の活動を通して資料を作り、それを基に地域の課題を見だし、考察することができること、第 3 は、季節の変化などを考慮して 1 年間を通じて地域の課題を見だし、考察することができること、第 4 は、生徒の生活と関わる地域なので、課題を見だし、考察しやすく、また、それらの課題を意見交換しやすいこと」と説明されている。

² 地理教育フィールドワーク 実践論、池俊介編著、学文社、2022

池は、フィールドワークの教育的意義について、①生徒の興味・関心の喚起、②知識やスキルの習得、③学習方法の習得、④他者と交流する機会の提供、の 4 点を指摘している。特に、日本とヨーロッパ諸国の地理教育を比較した上で、社会的スキルに寄与することが期待される④他者と交流する機会の提供の重要性に言及している。

³ 同 2

解説において地域調査の重要性が指摘されている一方、池によると、「事前の準備や実施に関わる時間の困難さ」を最大の理由に、中学校におけるフィールドワークの実施率には課題が残るといふ。また、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で、学校外での学習活動は避けられてきたきらいがある。

⁴ 本実践では、一定の自治権をもつ地方公共団体を「水戸市」、水戸市を基本とした探究の対象となる地域を「水戸」として使い分けていく。

(3) 指導観

そのため、指導にあたっては、水戸市の地形図や統計から情報を読み取る、実際に野外調査を通して情報を集める、集めた情報や撮影した景観写真・動画を地図にまとめる等の活動を取り入れることで、地域調査の手法を理解させたり、地域調査に関わる地理的スキルを習得させたりしていきたい。具体的には、新旧の地形図を比較したり、地形図からまちの様子を予想したりする活動を取り入れ、地形図を読図するスキルを高めていく。野外調査にあたっては、歩くルートや調査方法を生徒自ら検討したり、野外調査の注意点を考えたりする活動を取り入れ、地域調査の手法を理解することができるようにしていく。景観写真・動画の撮影や、事前に調査した情報へのアクセス等の利便性の観点から、積極的にタブレット端末を活用させ、効率的に野外調査を行えるようにしていきたい。

また、地域調査によって生まれた疑問を、対話や発表を通して学級全体で共有し、それらの疑問が次回以降の単元の学習内容と結び付いていくことを提示することで、大項目「日本の様々な地域」の学習の見通しをもてるようにしていく。発表や単元の学びの振り返りを行い、水戸の魅力について再考させる問いを投げかけ、水戸や学校周辺の地域に対する興味・関心を高められるようにしていく。

3 単元の見目

- 野外調査や文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解するとともに、地形図の読図、目的や用途に応じた地図の作図などのスキルを身に付ける。 [知識及びスキル]
- 地域調査において、水戸や学校周辺の特徴などに着目して、適切な調査・まとめとなるように、調査の視点や手法、調査結果を多面的・多角的に考察し、表現する。 [思考力、判断力、表現力等]
- よりよい社会の実現を目指して、学校周辺の地域に見られる地理的な特色を主体的に追究しようとする態度を養うとともに、水戸や学校周辺の地域に対する関心を高める。
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の学びの価値とそれを実感させるための手立て

(1) 単元の学びの価値

フィールドワークっておもしろい！

社会科が考える学びの価値は「社会を創るっておもしろい！」である。解説では、地域調査について、「地理的な追究の面白さを実感できる作業的で具体的な体験をともなう学習」を通して資質・スキルを身に付けることが大切と指摘している。フィールドワークを含む地域調査は、「地理的な追究の面白さ」を実感するに相応しい学習活動だと言える。また、解説で言及されている地域調査の特質から、地域調査は生徒の生活と関わる地域の課題を見だし、考察する活動に長けていることが分かる。この特徴から、フィールドワークを含む地域調査は、社会科の改訂における基本的な考え方の一つである、「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度」の育成に密接に関わっていると捉えられる。さらに、池は、フィールドワークについて「地域社会の一員としての意識を育てるシティズンシップ教育の視点からも評価されるべき重要な学習活動」と指摘している⁵。このように、フィールドワークは、生徒の主権者意識や当事者意識の涵養を期待できる学習活動だと考える。

そこで、本単元では、フィールドワークを通して、地理的に社会的現象を追及していく学習のおもしろさに気付かせるとともに、地域の課題を見だし、考察する学習が、よりよい地域社会の実現に向けて重要であることに気付かせたい。また、日本の諸地域関東地方や地域の在り方の単元に対する意欲を高めることができるようにしていきたいと考えた。

(2) 単元の学びの価値を実感させるための手立て

① 地域に対する先入観に気付かせる導入の工夫

本学級の生徒の中には、徒歩で通学する生徒もいれば、市外から公共交通機関を使って通学する生徒もいる。同じ教室で生活しているが、自宅から学校までの登校ルートや目にする景観は実に多様である。そのため、各々がもっている水戸に対する地理的なイメージは異なるだろう。また、公

⁵ 同2

公共交通機関を使って登校する生徒は、車窓から見えるまちの風景にあまり関心がないと思われる。生徒がもっている水戸に対する地理的なイメージは偏っている可能性がある。

そこで、フィールドワークを通して、普段見ていない側面から水戸の様子を調査したりしていく。水戸を多面的に見られるように、様々な調査の視点をもてるようにしていきたいと考える。具体的には、単元の導入において、地形図や統計を活用して、水戸について生徒自身もっているイメージが偏っていることや、普段の生活でまちの景観をつぶさに見ていないことに気付かせたい。その前提の上でフィールドワークを行うことによって、身近な地域である水戸を多面的に再発見させることで、知的好奇心を喚起していきたい。

② 社会の創り方を発見するフィールドワークの実施

前述したとおり、水戸は豊かな地理的特色を有するまちである。そのため、地形をどのように生かそうとしたのか、災害にどのように立ち向かったのか、県政の中心地としてどのようにまちづくりを進めたのか、歴史的にどのような取組をしてきたのか等、様々な側面からよりよい社会を創ろうとした痕跡に出会うことが期待できる。普段の生活では意識しにくい、「社会を創る」という意識をもってフィールドワークを行ったり発表資料を作成したりすることで、よりよい社会を実現するための意外な工夫や取組に気付かせていきたい。

③ 多様な他者と意見交換できる場の設定

フィールドワークの充実のためには、どのような調査が必要か、どのように調査すれば効果的か等の視点から、事前準備を充実させることが重要である。また、実際のフィールドワークにおいては、気付いたことや疑問に思ったことを積極的に発信し、共有していくことで、多面的・多角的に水戸を観察できると考える。さらに、全体での発表においては、多様な調査テーマに基いた調査結果が共有できると考える。

そこで、単元の導入やフィールドワークの事前準備の時間、発表の時間において、生徒がグループのメンバーと意見交換する場を設定していく。その際、気付いたことや疑問に思ったことを発信していくことの大切さを伝えながら、学習を進められるようにしていく。また、本単元のフィールドワークでは、茨城大学教育学部の学生やスクールボランティアの方々にも協力を依頼する。生徒には、学生やスクールボランティアの方々とも積極的に意見交流することを伝えて活動に臨ませる。世代が異なる他者とコミュニケーションをとりながらフィールドワークを行うことで、新たな視点や側面から水戸が有する特徴を発見したり、課題や疑問を見付けたりできるようにしていきたい。

5 指導と評価の計画（10時間扱い）

時間		○…評価規準【評価方法】	知・技	思・判・表	主体的	学習内容・活動	○指導上の留意点 ◎規準を実現するための手立て ★単元（題材）の学びの価値を 実感させるための手立て
次	時						
1	1				●	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水戸に関するイメージマップを描く。 ○ 水戸駅（赤塚駅）から学校までの地図を白紙に描く。 ○ 単元を通して探究する課題を設定し、学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 茨大附属中の周りの地域には、何があるのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ★ 水戸に関するイメージマップを描かせることで、生徒自身もっている水戸のイメージの偏りに気付かせる。 ★ 普段登下校しているルートの地図を描かせることで、普段の生活でまちの景観をつぶさに見ていないことに気付けるようにする。 ◎ 生徒自身もつ水戸に対するイメージや水戸に関する知識の偏りに気付かせることで、自身が生活するまちである水戸について探究する意欲が喚起されるようにする。

2		●		<ul style="list-style-type: none"> ○ 地形図の見方について知る。 ○ 水戸市の現在の地形図と過去の地形図を見比べ、水戸市の変化について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 水戸市の新旧の地形図を比較することで、「水戸はどのように創られてきたまちなのだろうか」という視点で考えることができるようにする。 ◎ 地形図の見方についての資料を参考に、水戸市の地形図を読図させることで、地形図の読図に関する技能を身に付けられるようにする。
3 ・ 4	① 野外調査や文献調査を行う際の視点や方法を理解するとともに、地形図や主題図の読図の技能を身に付けている。【ワークシートの記述の分析】	①		<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査テーマを設定し、仮説を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・水戸の低地ではどのような防災上の工夫があるのだろうか。 ・かつての水戸はどのような土地の使われ方をしていたのだろうか。など ○ グループで調査計画を立てる。 ○ 地形図や統計資料から調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 水戸に対して多様なイメージをもつグループのメンバーと意見交換する場を設定することで、多面的・多角的に事前調査を行えるようにする。 ◎ 第1時に作成したイメージマップや地図を見返すよう促すことで、多様な視点から調査テーマを設定できるようにする。また、地形図の見方についての資料を活用させることで、地形図や主題図の読図を安定して行うことができるようにする。
5 ・ 6			●	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとに調査テーマに基づいて野外調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 学生やスクールボランティアの方々とも積極的に意見交流するよう促すことで、多面的・多角的に水戸が有する特徴を発見したり、課題や疑問を見付けたりできるようにする。 ◎ 仮説と一致すること、予想に反することなど、ICT 端末を使って記録させることで、水戸のまちに見られる事象を主体的に追究しようとする態度を養えるようにする。
7		②			○ 「いばらき児童生徒地

	<p>② 地理的なまとめ方の基礎を理解するとともに、目的や用途に応じた地図の作図などの技能を身に付けている。 【学習活動の観察、ワークシートの記事の確認】</p>	<p>1 文献調査や野外調査を振り返り、課題を確認する。 調査結果を地図にまとめよう。</p> <p>2 調査のまとめ方と発表の仕方について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙に調査結果をまとめる。 ・文献調査や野外調査の対象となった地域の地図を用いる。 ・調査前の仮説や調査結果を整理・分析して得た考察を掲載する。 ・水戸がどのように創られたのか、どのような疑問が生まれたのかという視点から、考察をまとめる。 <p>3 グループで調査結果をまとめる。</p> <p>(1) 調査して得た情報のうち、使用する情報を決める。</p> <p>(2) 地図や写真を活用しながら、模造紙に調査結果をまとめる。</p> <p>(3) 他のグループと調査結果のまとめ方について意見交換する。</p>	<p>図作品展」の作品を参考資料として提示することで、調査結果のまとめ方のイメージをもたせる。</p> <p>○ ICT 端末で撮影した写真を成果物に貼ったり、撮影した動画へのリンクを QR コードで示したりすることで、聞き手に対して視覚的に訴える成果物を作ることができるようにする。</p> <p>★ 「社会を創る」という視点をもって発表資料を作成することで、よりよい社会を実現するための意外な工夫や予想しなかった取組に気付けるようにする。</p> <p>◎ 模造紙に調査結果をまとめる際の注意点についてモデルを示しながら解説するとともに、他のグループとよりよいまとめ方について意見交換する場を設定することで、効果的なまとめ方について理解できるようにする。</p>
<p>9 ・ 10</p>	<p>① 水戸の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。【学習活動の観察、成果物の記事の分析】</p> <p>① よりよい社会の実現を視野に、水戸の地域調査で発見した事象を主体的に追究しようとしている。【学習活動の観察、学習の振り返りの記事分析】</p>	<p>○ 成果物を使って調査結果について発表したり、他のグループの発表を聞いたりする。</p> <p>○ 単元を通して探究する課題について、自分の考えをまとめる。</p> <p>○ 地域調査によって生まれた疑問について、学級全体で共有し、それらの疑問が次回以降の単元の学習内容と結びついていくことを知る。</p> <p>○ 単元の学習を、「フィールドワークのよさ」の視点から振り返る。</p> <p>① ①</p>	<p>◎ 自分のグループだけの調査結果だけでなく、他のグループの調査結果を踏まえてまとめを書くようにすることで、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察できるようにする。</p> <p>◎ 単元の学習の振り返りに関して、地域調査で学んだことを次回以降の単元の学習と結び付けて考えるよう促すことで、地域調査で発見した地理的事象を主体的に追究しようとする態度を養えるようにする。</p>